

大雪災害に備えましょう

これから本格的に雪のシーズンとなります。気象庁は、この11月から来年1月までの3か月予報で、平年よりも気温が高く暖冬となる見通しとしていますが、寒気状況によっては大雪の可能性もあります。

奥多摩町では平成26年2月の大雪災害が記憶に新しいところですが、大雪が降った時に慌てることがないように、日頃から、大雪への備えをしておきましょう。

【大雪への事前の備え】

◎気象情報について知る

降雪時に慌てないためには、気象庁が発表する警報や注意報、予報、降積雪の状況などに注意することが重要です。気象庁が発表する気象情報について事前に知っておくとともに、**日頃から、気象庁ホームページ、テレビ、ラジオなどから気象情報を積極的に収集するようにしましょう。**

なお、気象庁のホームページでは、「今後の雪」の予報（降雪短時間予報）を見ることができます。ここでは、72時間後までの降雪量や6時間後までの積雪の深さの予報が確認できます。

◎不要不急の外出を控えるための備え

降雪予報が出たら、外出しないで済むように早めに食料の備蓄をし、停電に備えて電気がなくても暖をとれる準備をしておきましょう。

広報おくたま10月号「ご家庭での防災備蓄は十分ですか？～1週間分の備蓄があると安心です～」の記事も参考にしてください。



◎自動車を利用する場合の備え

積雪時の冬用タイヤやタイヤチェーンの未装着での走行は、スリップなどによる立ち往生の原因となり、渋滞や事故の原因にもなります。冬の道路では、**冬用タイヤの装着**を忘れずに行いましょう。

また、降雪時にやむを得ず自動車を利用する場合に備え、**タイヤチェーン、スコップ、手袋、ブースターケーブル、携帯電話、懐中電灯など、雪道走行に必要な物品を確認しておきましょう。**

【降雪時の行動のポイント】

◎徒歩で移動する場合

降雪時や降雪後は、**道路が大変滑りやすくなるので、外出する場合は滑りにくい長靴などを履き、小さな歩幅で歩く、靴の裏全体を路面につけて歩くなど、足元に十分注意しましょう。**

坂道は、上るときよりも下るときの方が滑って転びやすく危険です。下るときは特に注意しましょう。

転んだときの怪我の予防のために、帽子をかぶる、手袋をするなど、身に着けるものを工夫することも安全対策の一つです。

◎自動車を利用する場合

自動車の利用は控え、やむを得ず運転の必要がある場合には、**事前に満タンに給油しておき、タイヤチェーンやスコップなどの雪道走行に必要な物品を備え、普段の倍以上の車間距離をとり、急ブレーキや急ハンドルは厳禁です。**

◎鉄道を利用する場合

降雪時は、運転休止やダイヤの乱れにより、通勤や通学などに影響が出る場合があります。鉄道の運行情報などを、こまめにチェックしましょう。

《次ページへ続く》